

課外講習のお知らせ

鷗友教育研究所 担当: 中村達幸

【開設講座】

講座名	曜日・時間
5.Ⅲ・スーパー英作文	月曜日 7・8時間目
6.Ⅲ・文法で極める英文解釈	火曜日 7・8時間目
7.Ⅲ・古文	水曜日 7・8時間目
8.Ⅲ・数学(数ⅠA・ⅡB)	木曜日 7・8時間目
9.Ⅲ・現代文	金曜日 7・8時間目

【授業内容】主に大学入試問題等を使用した演習。1クール 100 分授業×7回

【日程】第1クール:4月～7月 /第2クール:主に9月～12月。夏休み前には特講を予定(別途連絡します)。

【受講料】1クール・1講座 8,400 円。1 クール・2クール両方だと 16,800 円

新型コロナウイルスの流行状況によっては遠隔授業 (YouTube 配信) に変更する場合があります

【申込み方法】

1.受講料を振り込む

振り込みには2つの方法がありますが、Aのネットでの振り込みをお勧めします。どちらの方法でも振り込み時に手数料がかかります。

A 銀行などの金融機関からネットバンキングで振り込む

〈参照〉https://www.jp-bank.japanpost.jp/kojin/sokin/furikomi/kouza/kj_sk_fm_kz_1.html

銀行名: ゆうちょ銀行(金融機関コード:9900 店番:019)


店名(支店名): 0一九店(ゼロイチキュウ店) 預金種目: 当座 口座番号: 0615705

振込先へのメッセージ欄がある場合は「受講する講座名」(略称でよい)、生徒の学年・クラス・番号・氏名」をお書き下さい。欄がない場合は下記のメールアドレス宛にメールにてご連絡ください。

B お近くの郵便局で、郵便振替で払い込む

郵便振替用紙(郵便局にあります)に必要な事項を記入して、窓口で払い込む。

口座番号 00130-7-□615705

 1マス分空白

加入者名 鷗友教育研究所 金額 (講習料)円

通信欄 「受講している講座名」(略称でよい)、「生徒の学年・クラス・番号・氏名」を記入

ご依頼人 依頼人の住所・氏名(保護者名でも生徒名でも可)を記入

※振り込みの半券は領収書としてご自身で保存しておいてください。

2.別紙「課外講習申込書」に必要事項を記入して、~~3月22日(火、終業式)までに担任に提出する~~

3月25日(金)までに担任に提出する。春休みに入ったら、25日(金)までにメールで申し込んでも結構です(「申込書」の提出は次回登校の時でよい)。

【備考】

・第1・第2クールをまとめて申し込むことができます。(但し、現代文の第2クールの「一橋大対策」は夏休み前に別途募集します。)

・1回の振り込み・1枚の振替用紙で、複数の講座の受講料を振り替えても結構です。

・応募者が多数の場合は、郵便振替の日付を考慮した抽選になることがあります。

・締め切りに遅れた場合は、希望する講座名を明記の上、以下のアドレスにメールをしてください。

kyoikuken@ohyu.ed.jp

・このお知らせプリントは、「<http://ohyu-11c.com/>」からダウンロードできます。

[講座内容と講師]

5. III・スーパー英作文 月曜

[講師]白石 富男

埼玉大学大学院卒。河合塾や城南予備校などの予備校で教鞭をとる一方、英作文の参考書や『ジーニアス英和辞典第四版』『ジーニアス英和辞典第五版』『ジーニアス和英辞典第三版』『ベーシックジーニアス英和辞典第二版』(以上大修館書店)、『類語大辞典』(講談社)などの辞書執筆も行ってきました。授業では、なぜこういう表現はダメか、なぜこういう表現になるのか、などを納得してもらうよう心がけています。

[講座内容]

大学入試のライティング問題は、選択問題や整序作文などの客観問題と和文英訳問題や自由英作文問題という記述問題に分けられます。客観問題は自主学習ができますが、記述問題は自分が書いたものがどの程度でいいのか分からないとどうにもなりません。そこで、授業では記述問題を素材にして、受講生の英語を添削する形で進めていきます。

Readingの力をつけるために精読と多読両方をバランスよく行うことが必要であるのと同じように、ライティングでも語句のチョイスや文法、構文を意識して、1語1語に気を配りながら書く「精書」と文章全体の構成や流れに注意してまとめた内容を書く「多書」をバランスよく練習する必要があります。受験勉強のライティングで「精書」に当たるのが和文英訳で、「多書」に当たるのが自由英作文になるでしょう。1学期は「精書」に比重を置き、1?2行程度の日本語を英訳する練習を中心に行う予定です。英作文が必要なくても、英文法に苦手意識がある人には、かなり役立つ講座にするつもりです。(初回は導入として英語の間違い探しをし、その後は1回の授業で3題前後の問題演習を行う予定です。)

ただし、受講者の皆さんの間で、自由英作文に対する要望が強ければ、授業構成の一部を変更します。デモ授業(お試し授業)でそうした要望を伝えてくれると嬉しいです。

6. III・文法で極める英文解釈－正確な英文解読の基本を学ぶ 火曜

【講師】武谷 武志

医歯薬系専門予備校を含む多くの予備校や進学実績を急速に伸ばした高校で数多くの悩める受験生に英語を教えてきました。だから受験生が躓いてしまう箇所、伸び悩む理由は熟知しています。みなさんの立場に立って、独学では乗り越えにくいポイントに絞って「わかった！」という快感が学習の原動力となるような授業をしていきます。

【講座内容】

入試の英文解釈は、文法・語彙・大意把握・文脈把握・詳細な内容一致・訳出など様々な英語力が試される試験です。

そのため単に「なんとなく内容は読めているのに…」と書いていても点数に結びつかないことがよくあります。

特にフィーリングで英文を読んでいる人は、たとえ大意の把握はできてもその他の設問で点数を落としてしまい、結局思うように点数が伸びない、ということはありませんか？

こういった「症例」に対処するため、この講座では、ただ漠然と感覚で英文を読むのではなく、文法と論理に基づいて正確に英文を読む読解法、点数に結びつく読解法を訓練していきます。

そのためにこの講座では、単なる英文解釈、長文読解にとどまらず、必要ならば文法の基本にまで立ち返って基礎から英語の構造を理解し、知識を整理し、最終的には「自力」で正確な英文読解ができるようになる訓練していきます。

中堅私立から難関私立、国公立に至るまで、受講生の志望と実力に合わせて柔軟に対処していきますので英語が苦手でも大丈夫！

自信を持って「英語は得意！」と言える自分に変えていきましょう。

7. III・古文 水曜

【講師】百瀬 陽平

高校や大学で教えた経験を踏まえ、大手予備校の教壇に立つ。授業では＜情報処理能力を高めること＞を主眼としている。言葉に意味を与えたり、文章の次の内容を予測したり、大学入試古文は決して暗記科目では終わらない、と考えている。＜読み＞とは関係づけること。骨のある文章との格闘による＜読み＞の愉楽を受験生に提供したい。

【講座内容】

古文の読み方のベースを確認した後、時代とジャンルを変えながら難易度を徐々に上げていきます。

「限られた時間の中で初見の文章を読み解く能力を磨く」

そのためには何をどのくらい覚えて、何をどのように考えればよいか、ということを解説します。

講義の内容やレベルについては、共通テストで満点を狙う生徒や難関国公立大に合格する生徒にとって、入試から逆算して「今やるべきこと」ということになります。

8. III・数学(数IA・II B) 木曜

【講師】 宮内 正

多くの予備校で、医学部数学から理系文系の講座を多数担当している。論理的で明快な解説とその優しい人柄で数学の苦手な生徒達からも厚く信頼されている。

【講座内容】

頻出の入試問題を通して、現時点で理解している部分および理解していない部分を、みなさんに自己分析してもらい、その対策を伝授していきます。穴埋めの問題と記述式の問題の両方を扱いますが、記述式の場合は、答案の作成方法と「記述すべき事柄や式」に注意しながら解説します。共通テスト対策についても要望があれば実施します。

第1回 数と式、方程式・不等式

第2回 式と証明(割り算の問題など)

第3回 指数・対数関数

第4回 図形と方程式

第5回 ベクトル

第6回 数列

第7回 場合の数・確率

9. III・現代文 金曜

【講師】 山田 芳明

【講座内容】 現代文は何となく読み、何となく解いている人が多い科目です。そうしたやり方から脱却し、文章を正確に読むとともに、設問に〈正攻法〉で答えることが年間通しての共通目標です。ちなみに、〈正攻法〉とは〈消去法〉に頼らない解き方です。もちろん〈消去法〉が必要なときもあるのですが、安易に頼りすぎないことが、入試得点力をアップさせる上で非常に大切です。まずは〈正攻法〉の解き方をしっかりと身につけてください。

この講座はクールごとに内容や目的が異なり、自分に必要なものだけを申し込むことが可能です。それぞれのクールの大まかな内容は以下の通りです(なお、授業は対面式とオンラインを、状況に応じて、適宜組み合わせで行います)。

第1クール:4月から7月にかけては、文系の生徒を対象に私大対策(全7回)を行います。主として早大・上智大の入試問題に取り組む予定です。

第2クール:7月から1月にかけては、東大(全7回)と一橋大(全4回)の記述対策を行います(どちらかを選択して受講できます)。

※ 授業は演習形式で行いますので、対面式の授業の場合、原則として予習は必要ありませんが、オンラインによる授業の場合、事前に問題を解いておいてもらう形になります。いずれの場合も、集中して問題に取り組み、自分の頭で考える時間を大切にしてください。